

ある都心の逸話（い
つわ） 寂れたラブ
ホテルの屋上 真
っ白下着の義母た
ち

とあるムッチムチ下着の義母と人妻仲
間たちは、街の西の方の住宅街の道路で
立ち話をしていた。

笑顔でキャミソール。どこでもよくある
ような主婦同士の世間話である。

ただ・・・三人の人妻たちは皆、ムッ
チムチお尻。

真っ黒まつ毛、眉毛は細くて高い香水で
いい匂いの義母であるが、彼女には行き
つけの老舗カフェがある。

・・・・・・・・・・。

チリンッ・・・・・・・・入り口のドアベルが
鳴る。

この日も義母そして彼女の友人たちが
カフェへ。

半透明の模様柄ビニールのテーブルク
ロス。年季が入ったしわくちやの雑誌や
漫画。営業年数を感じさせる。

ネットなどで調べてもある程度有名で

人気だが・・・・・・・・。

実情は・・・・・・・・ホテル乱交の女子たちの
遊び場。

ムッチムチ太ももの足を組みかえる人
妻たちはユウタの義母ユナコの真っ白
下着に触発され、この日も一緒にアイス
コーヒー。次の週に出かける場所を提案
し合っていた。

「・・・・・・・・そうね、いい下着買ったから・・・・・・・・この場所へ行かない？」

頬に手をそっと添え、グラスに入ったアイスコーヒーをまた口へ運ぶ。

街の真ん中あたりの午後・・・・・・・・。

少し南寄りの国道沿い。

カフェでの話題は進み、壁の昔っぽい時計は午後を過ぎている。

会話の内容はとある街の逸話（いつわ）
に移っていた。

逸話・・・・・・・・俗に都市伝説やオカルト
などとも言うが・・・・・・・・。

カフェテーブルの下。スカートの膝をく
つつけるカナエ。

やけに現実的な人妻たちのムッチムチ
太もも。

白いハイヒールとジーンズのような話
である。

.....。

女子たちは太ももが大きく、そして顔は
いつものエッチな行為で柔和。

.....視線をふと軒先の鉢植えへ移
す。

昼下がりの午後の日差しは温和。たまに道路に車が通っている。カナエは席を立った。

ここは女子たちが夜のセックスの話題で慣れ親しんだ常連のカフェである。

ちなみに・・・・・・・・。

店主とも親密な間柄。

一緒に夜はスナックへ行きお酒を飲んだり・・・・・・・・もちろんその後はラブホテ

ルへ向かう。

淫靡（いんび）なベッドの上で楽しんだ
あとは買い物に行くこともある。

いつもの女子同士の世間話は主に夜の
真っ白下着の話だが、スナックなどでは

お酒を入れて日々の仕事の大変さなどを語り合うことも多い。

カナエは軒先に一旦出て鉢植えから戻る際に少し茶色っぽい汚れの入った漫画を手に取り、

人妻のリサナなどの女子たちがホットパンツから太ももを出して座っているテーブル席へ戻った。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)